

マルチプロトコルアナライザー

PCリンクソフト LE-PC300G

取扱説明書

和文と英文の最新の取扱説明書は、付属のCDに pdf ファイルで収録されています。 インストール時にシリアル番号の入力が必要です。

シリアル番号は、箱(およびお客様登録カード)に記載されています。

The CD-ROM attached to a product contains the newest English and Japanese instruction manuals in a PDF format. Please refer to them.

Input the serial number on installation of this product.

You can see the serial number written on the package box and Registration Card.

目次

- 第1章 ご使用0		
第2章 はじめに		
概要	·	2
商品構成		2
第3章 起動の	前に	
インストール手	[.] 順	2
アンインストーノ	ル手順	3
USB ドライバの	りインストール (LE-3500/LE-2500 のみ)	3
アナライザの設	发定	5
第4章 データウ	ウィンドウについて	6
LE-PC300G PC	Cリンクソフトのデータウィンドウ	6
第5章 動作環	霥境の設定	8
リモート設定		8
第6章 リモート	トモニター	
接続		14
計測器の設定.		14
シミュレーション	ンデータの設定	15
測定可能スピー	ードの目安	
測定の開始 測定の終了		
表示画面の切る		
測定データの誘	ー 読み出し	
データの検索		
第7章 ビットエ	- ラーレイトテスト(BERT)	
測定の開始		19
第8章 キーエミ	ミュレーション	
キーエミュレージ		
画面イメージの	D取り込み	
第9章 テキスト	卜変換	
テキスト変換機	進能の設定	21
テキスト変換機	巻能の実行	23
第10章 波形 -	モニターデータ	
第11章 複数台	台のアナライザを接続する	25
リモート設定の		
データウィンドウ	ウを開く	
リモート設定の)削除	
起動時の動作言	設定	
起動オプション	/	27
第12章 仕様		

Copyright 2008-2013 by LINEEYE CO.,LTD All rights reserved.

ソフトウェア使用権許諾契約書

株式会社ラインアイ(以下「弊社」といいます)は、本契約書とともにご提供するソフトウェア・ プログラム及び付随ドキュメント(以下「本ソフトウェア」といいます)を使用する権利を本契約 書の条項にもとづき許諾し、お客様も本契約書の条項にご同意いただくものとします。

1. 著作権

本ソフトウェアの著作権は弊社が所有しています。

- 使用権の範囲
 弊社は、お客様が本ソフトウェアを受領し本契約に同意した日から本ソフトウェアを1台のコンピュータで使用する権利をお客様に対してのみ許諾します。よって、本ソフトウェアの第三者への譲渡、貸与、賃借は許諾しないものとします。
- 複写・解析・改変について お客様が本契約書に基づき、弊社から提供された本ソフトウェアをマニュアルに規定し てある場合を除いて、いかなる場合においても全体的または部分的に複製・解析・改変 することはできないものとします。
- 4. バージョンアップ

本ソフトウェアは、ハードウェアやソフトウェアの技術的進歩により、事前の予告なしに バージョンアップすることがあります。お客様は弊社が別途定める料金を支払うことによ り、本ソフトウェアのバージョンアップ品を受取り使用することができます。なお、バージョ ンアップは、本契約の使用権を同意されたお客様に限られます。

5. 弊社の免責

本ソフトウェア及び関連ソフトウェアによる生成物が、直接または間接的に損害を生じて も、弊社は一切の責任は負いません。また、機器や媒体が原因の損害に対しても、弊社 は一切の責任は負いません。さらに、本ソフトウェアを使用した結果の影響に関しても一 切の責任を負わないものとします。

- 一般事項
 本契約のいずれかの条項またはその一部が法律により無効となった場合は、かかる部 分は本契約から削除されるものとします。
- 本ソフトウェアのサポートについて 弊社のサポートの範囲は、本ソフトウェアの機能、操作面、本ソフトウェアのみに起因す る問題に限らせていただきます。
- その他 別段に定めのない事項については、著作権法および関連法規に準拠するものとしま す。

株式会社 ラインアイ

第2章 はじめに

このたびは「PC リンクソフトLE-PC300Gをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本ソフトを正しく効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みください。 また、ご利用のアナライザの取扱説明書も合わせてお読みください。
- この取扱説明書は必ず保存してください。

概要

本ソフトはLE-2500/LE-3500/LE-1200/LE-2200/LE-3200/LE-7200など各種アナライザを PCから測定開始し、モニターデータをUSBポート、AUX ポート(シリアル)やメモリーカード経 由でPC に取り込むことを可能にするソフトウェアです。

商品構成

開梱時、下記のものがそろっているか確認してください。

- □ CD-ROM(ソフトウェア) 1枚
- □ 取扱説明書(本書) 1部
- □ お客様登録カード 1通

万一、不足品がありました場合には、お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。お客様登録カードは必要事項を記入の上、必ずご返送ください。 ご返送いただかない場合は、バージョンアップなどのサポートを受けることができなくなりますのでご注意ください。

第3章 起動の前に

インストール手順

①供給CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

- ②「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- ③コマンド行に"D(ご使用のCD-ROMドライブを指定):¥setup"と入力し、「OK」をクリックします。
- ④インストーラが起動します。画面の表示に従ってインストールしてください。インストール中 にシリアル番号の入力を求められます。シリアル番号は「お客様登録カード」に記載されて

いる番号を入力します。

⑤インストール終了が表示されましたら「完了」をクリックしてください。

①コントロールパネルから、「アプリケーションの追加と削除」を開きます。
 (ご使用のOSによっては「プログラムの追加と削除」となっていることがあります)
 ②「LE-PC300G」を選び「削除」を実行します。

USB ドライバのインストール(LE-3500/LE-2500 のみ)

PC リンクソフトはUSB 経由でアナライザ LE-3500/LE-2500 をリモートコントロールできます。 初めてアナライザをPC に接続した場合は、PC にUSB ドライバをインストールする必要があ ります。USBドライバはアナライザに附属しているCD-ROM に収録されています。

対応OSはWindows 2000/XP/Vista/7です。

- ・Windows 2000/XPの場合
 - 1. アナライザの USB ポートを USB ケーブルで PCの USB ポートと接続します。
 - 2. アナライザの電源を入れると、PC上で新しいハードウェアの検出ウィザードが起動しま す。
 - 「ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?」というダイアログが表示 された場合は、[いいえ、今回は接続しません]を選択して[次へ]をクリックします。
 - 4. [一覧または特定の場所からインストールする]を選択し、[次へ]をクリックします。
 - [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを付けた上で、ドライバファイルがあるフォルダを指定して、[次へ]をクリックするとインストールが始まります。
 - インストール過程でロゴテストに合格していない旨のメッセージが表示された場合、[続行]をクリックしてインストールを続行してください。
 - インストールが終わると「新しいハードウェアの検索ウィザード完了」というダイアログが 表示されるので、[完了]をクリックしてウィザードを閉じてください。
 - Windows XP での手順を記載していますが、Windows 2000でもほぼ同様ですので、本手順を参考にインストールをお願いします。

・Windows Vista/7の場合

- 1. 供給CD-ROMを、インストールするPCのCD-ROMにセットします。
- 2. CD-ROMの"Driver"フォルダ内のsetup.exeを実行します。
- PC 上で「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが起動します。
 そこで、「はい」をクリックします。

🛞 ユーザー アカウント制御	x
⑦ 次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか?	
プログラム名: Driver Package Installer 確認済みの発行元: LINEEYE CO.,LTD. ファイルの入手先: ネットワーク ドライブ	
○ 詳細を表示する(<u>D</u>) (はい(Y) いえ(N)	
<u>これらの通知を表示するタイミングを変更す</u>	3

- 4. 「LINEEYE ドライバパッケージインストーラー」ウィンドウが起動します。 「OK」をクリックします
- 5. インストールウィザードが起動するので「次へ」をクリックします。
- 6. 「Windows セキュリティ」ウィンドウが起動します。 そこで、「インストール」をクリックします。



- 「デバイスドライバのインストールウィザードの完了」と表示されます。
 「完了」をクリックします。
- LE-2500/LE-3500を接続します。認識されると右下のタスクトレイに下図のようなメッセージが表示されます。これでインストールは終了です。
 - 上記では、Windows 7 での手順を記載していますが、Windows Vista でもほぼ同様ですので、本手順を参考にインストールをお願いします。



アナライザの設定

①アナライザを測定したい回線に接続します。

- ②アナライザとPCをシリアルポート接続の場合はアナライザに付属のケーブル(LE2-8V) で、USB接続の場合はUSBケーブルで接続します。
- ③シリアルポート接続の場合はアナライザ側のAUXポートを以下のように設定します(USB 接続の場合は不要です)。
- (データ長は8ビット固定となります。)

<例>

通信速度は通常の場合115200bps に設定します。

データ長は8ビットに設定します。

パリティはNONE(なし)を推奨します。

X-CONT(フロー制御)はOFFにします。





ご注意 ※ LE-PC300Gを起動する前に、必ずアナライザの設定を行ってください。 ※ 接続中にアナライザの電源を切断しないでください。 ※ LE-3500/LE-2500 をシリアルポート接続で使用する場合、 アナライザのUSBポートには何も接続しないでください。 ※PCが省電カモードになると、PC リンクソフトの接続が切れますので、 連続測定するときは、必ずPCの省電カモードを off にしてください。 LE-PC300G PCリンクソフトのデータウィンドウ

■ LE-PC300G PCリンクソフトの起動 Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」「LINEEYE」「LE-PC300G」 「LE-PC300G」を起動します。 通常、次のようなデータウィンドウが表示されます。

データウィンドウ

		🖴 Remot	e01 - LINI	EEYE LE	-PC300G					
1	\rightarrow	ファイル(E)	リモート(風)	測定(M)	ツール①	ヘルプ(日)				
2	\rightarrow	1	• # 旨	PB 🏠		Part 10	- E	2		
_										
3	\rightarrow									
								オフライン	LE-3500	
		↑			1			1	1	
		Å			G	0		©	(7)	
1		- 4				v		U	U	
⊕ ∧-										

ここから各種操作を行うことができます。

②ツールバー

ここから各種操作を行うことができます。

③データ表示部

測定データが表示されます。

④データポジション表示部

データ表示部で表示しているデータのポジションが表示されます。リモートモニター中は データの欠落回数が表示されます。 ⑤各種状態表示部

測定状態などが表示されます。

⑥接続状態表示部

アナライザとのリモート接続状態が表示されます。

⑦機種表示部

オフライン時は設定されているアナライザ、オンライン時には接続されているアナライザ の機種名が表示されます。

詳細な使用方法についてはオンラインヘルプを参照してください。

リモート設定

データウィンドウのツールバーで「ご」」ボタン(またはメニューの「リモート」→「リモート設定」)をクリックし、リモートに関する設定を行います。

リモート設定の中には「接続」、「機種選択」、「リモートモニター」、「キーエミュレーション」、「 その他」のページがあります。

■「接続」ページ

リモート接続に関する設定を行います。

ノモート設定	
设定名: Rem	note01
接続 機種選択	リモートモニター「キーエミュレーション」その他
接続方法(<u>M</u>):	シリアルポート直接
シリアルポート(<u>P</u>):	COM11 💌
通信速度(<u>S</u>):	115200
データビット数(<u>D</u>):	8
パリティ(<u>A</u>):	なし 💌
X-Control 🖄 :	なし 💌
	OK キャンセル

「接続方法」

次の中から接続方法を選択します。

「シリアルポート直接」

シリアルポート直接	*
シリアルボート直接	
SI-60 経由	
FA-11 経由 FA-21 経由	

PCのシリアルポートまたはUSB-シリアル変換器(LE-US232B)等

を利用してアナライザを接続する場合

「USB」 USB で接続する場合(LE-3500/LE-2500 のみ)

- 「SI-60経由」 SI-60を介して接続する場合 ※1
- 「FA-11経由」 FA-11を介して接続する場合 ※2
- 「FA-21経由」 FA-21を介して接続する場合 ※2
 - ※1 SI-60またはSI-60Fが利用できます。SI-60を利用する場合はDsub25(オス)-9(オス)変換アダ プタ(LE2-8V利用の場合)もしくはLE2-8Cが必要です。変換器設定の詳細は、変換器の取 扱説明書をご覧下さい。
 - ※2 FA-11/FA-21はセンチュリー・システムズ株式会社のイーサネット/RS-232変換機です。

選択した接続方法により必要な設定が異なります。

「シリアルポート」(「シリアルポート直接」) 接続に使用するPCのシリアルポートを設定します。 直接シリアルポート名を入力するか、COM1~COM9の範囲であれば ドロップダウンリストから選択することもできます。

「通信速度」(「シリアルポート直接」、「SI-60経由」、「FA-11経由」、「FA-21経由」)	11520
アナライザのAUXポート設定の通信速度に合わせて設定します。	9600 19200
	38400

「データビット数」(「シリアルポート直接」、「SI-60経由」、「FA-11経由」、「FA-21経由」) データビット数は8に固定で変更はできません。 アナライザのAUXポート設定も必ず8ビットに合わせてください。

- 「パリティ」(「シリアルポート直接」、「SI-60経由」、「FA-11経由」、「FA-21経由」) アナライザとの通信データパリティを設定します。 通常は「なし」に設定してください。
- 「X-Control」(「シリアルポート直接」、「SI-60経由」、「FA-11経由」、「FA-21経由」)^{取し} アナライザとのX制御方式のフロー制御を行うかどうかを設定します。 通常は「なし」に設定してください。
- 「シリアル番号」(「USB」) 制御する対象のアナライザのシリアル番号を設定します。 アナライザが PC に接続されている場合はドロップダウンリストから シリアル番号を選択することもできます。

「ホスト名」

(「SI-60経由」、「FA-11経由」、「FA-21経由」) 使用するLAN-シリアル変換器のホスト名またはIPアドレスを設定します。

木スト名(日): ****.****.***

「データポート」(「SI-60経由」) シリアルデータを送受信するためのポート番号を設定します。未入力時には自動取得し ますので、通常は未入力の状態にしておいてください。ルーターやファイアウォール等で ポート番号が変換されるような場合には設定が必要です。

データポート(P): (未入力時は自動取得)

COMU

OM4

OME

なし
加酸

「制御ポート」(「SI-60経由」)

SI-60の制御ポート番号を設定します。通常は未入力の状態にしておいてください。 ルーターやファイアウォール等でポート番号が変換されるような場合には設定が必要です。

制御ボート(C): (未入力時は"30718")

「コマンドポート」(「FA-11経由」、「FA-21経由」) FA-11、FA-21のコマンドポート番号を設定します。

「シリアルポート」(「FA-21経由」)

FA-21の2ポートあるシリアルポートのどのポートを使用するかを選択します。

■「機種選択」ページ

使用するアナライザに関する設定を行います。主にオフライン時に使用されますが、オ ンライン時にリモート通信で取得できない情報があった場合はここでの設定がそのまま 利用されます。なお、リモート通信により情報が取得できた場合は、それに従ってこれら の設定は自動的に変更されます。

(以下、LE-3500をベースに解説。他の機種も同様の操作)

リモート設定 🔀
設定名: Remote01
接続 機種選択 リモートモニター キーエミュレーション その他
計測器機種(M): LE-3500
拡張ボード(E): 標準 ✔
ファームウェア(E): 通常 💙
上の設定はオラインキ特、リモート通信での情報取得ができない計測器が 預約されている場合で明年れます。 リモート通信におしたいらの情報を取得した場合は、接続されている計測器 に従って設定が更新されます。
OK キャンセル

「計測器機種」

対象のアナライザの機種名を選択します。

「拡張ボード」

対象アナライザに装着している拡張ボードを選択します。

標準	*
標準	
OP-SB5G	
IOP-SB6G	

LE-3500

3200

「ファームウェア」

対象アナライザでオプションファームウェアを使用した場合に設定します。

通常	*
通常	
OP-FW10G	

■「リモートモニター」ページ

リモートモニターに関する設定を行います。

リモート設定	
リモート設定 設定名: Remote01 接続 機構選択 リモートモニター キーエミュレー: リモートモニターデータの保存先 C*Documents and Settings¥Kubota¥My Docum プロックサイズ(B): 1M //(/ト ♥ 島ーナゴロックサイズ(B): 2000 (0-2010)	 アコン その他 ments¥LEPC300G¥Pemote01¥Buffer 変更②… フルストップ(P) データファイルが最大ブロック数に達したら測定を停止する。
	 □ 追記モード(A) 測定開始時には既存ファイルは消さす、続けて記録する。 ■ 経過時間による切着(4) 指定時間が経過することに記録するファイルを切り替える。 ・ 切替時間(1): 24 ● 時間(1-24) >> 警告表示(W) 測定開始時間(データファイルがあれば警告する。
	OK キャンセル

「リモートモニターデータの保存先」

リモートモニター機能によりアナライザから受信したデータを保存するフォルダです。 設定を変更する場合は「変更」ボタンを押すとフォルダ選択用のウィンドウが表示されま すので、設定したいフォルダを選んで「OK」ボタンを押してください。データが保存される ファイル名は「00000000.DT」から順にファイル名部分が連番になるように保存されます。

- ※ 専用のフォルダを指定することを推奨します。
- ※ 空き容量が十分にあるドライブを指定してください

(空き容量が少ない場合PCの動作が不安定になる場合があります。)

「ブロックサイズ」

1ファイルあたりのデータ容量を設定します。「1Mバイト」、「2Mバイト」、 「4Mバイト」、「8Mバイト」から選択できます。



「最大ブロック数」

2~2048まで設定できます。データファイル数がこの設定値を越える場合、ファイル名番 号の若いデータファイルが削除されます。

「フルストップ」

チェックするとデータファイルの数が最大ブロック数に達した時、自動的に測定を停止し ます。チェックを外すと、ブロックサイズを最大ブロック数で乗じたサイズのリングバッファ を構成して連続測定します。 「追記モード」

チェックすると測定開始時に既存のデータファイルは消さず、既存データファイルの続き の番号からデータファイルを保存するようになります。ただし、追記モードであっても総デ ータファイル数が最大ブロック数の設定を超える場合はファイル名番号の若いデータフ ァイル(以前の測定で保存されたデータファイルも含まれます)が削除されます。

「経過時間による切替」

チェックすると書き込み中のデータファイルがブロックサイズで指定したデータ量に満た ない場合でも、指定された時間が経過するごとに書き込み先を次の新たなデータファイ ルへ切り替えます。ただし、指定された時間が経過しても、そのとき書き込み中のデ ータファイルに測定データが全く書き込まれていない場合は切り替えません。

「警告表示」

チェックすると測定開始時に保存先に指定されたフォルダにデータファイルが存在する 場合、警告メッセージを表示します。



■「キーエミュレーション」ページ

キーエミュレーションに関する設定を行います。

リモート設定	×
設定名: Remote01	
接続 機種選択 リモートモニター キーエミュレーション その他	_
画面データの保存先	
D¥LINEYE 文更②	
OK 年#シセル	

「画面データの保存先」

キーエミュレーションで画面の保存を行った場合に画面イメージが保存されるフォルダで す。設定を変更する場合は「変更」ボタンを押すとフォルダ選択用のウィンドウが表示さ れるので、設定したいフォルダを選んで「OK」ボタンを押してください。

リモート設定
設定名: Remote01
接続 機種選択 リモートモニター キーエミュレーション その他
✓ 設定の同期(S) 計測器設定ウィンドウの開閉時、自動的に設定データの送受信を行う。
目動受信の抑止(D) 設定データの送信のみ自動で行い、自動的な受信は行わない。
ビシミュレーションプログラムの転送(P) 送受信する設定データにシミュレーションプログラムも含める。
OK キャンセル

「設定の同期」

● オンライン時

チェックを入れた場合、計測器設定ウィンドウを開いたとき自動的に設定を受信し、閉じ たとき自動的に設定を送信します。

ただし、「自動受信の抑止」をチェックしている場合は、設定の送信のみ自動で行い、自 動受信は行いません。

● オフライン時、または測定中

チェックを入れた場合でも、設定したデータは自動的に送信されません。

☆ オンラインにして計測器設定ウィンドウを開いたとき自動的に設定を受信し、上書き されるため、ファイルとして保存しておく必要があります。

「プログラムシミュレーションの転送」

チェックをした場合は、送受信する設定データにシミュレーションプログラムを含めます。

第6章 リモートモニター

アナライザの測定を開始し、リアルタイムに表示しながら、PCのHDDに測定データを記録することができます。

接続

動作環境の設定(リモート設定)が終了したら、データウィンドウのツールバーで「 伦 」ボタン (またはメニューの「リモート」→「接続」)をクリックしアナライザと接続します。アナライザとの 接続が完了した時点でデータウィンドウの接続状態表示部が「停止中」、機種表示部に接続 されているアナライザの機種名が表示されます。

計測器の設定

データウィンドウのツールバーで「 🔁 」ボタン(またはメニューの「測定」→「計測器設定」)を クリックしアナライザの設定を行います。

計測器設定		
機種: LE-7200		2 🖬 🔓
- 機能選択 - イメク-フェース - モンターブッフェース - モンタージッファ - データモニター - コンマイグレージョン - ドリガー - トリガー 0 - トリガー 0 - トリガー 1 - トリガー 2 - トリガー 2 - トリガー 2 - トリガー 2 - トリガー 3 - ダイマー/カウンター - ジョンデーダテーブル - 読形モニター - 自動RIN/STOP - 日明 - 日付・時気! - その他	MONITOR OILINE O DELAY O TREND BERT O BERT SIMULATION O MANUAL O BUFFER O FLOW O ECHO O POLLING O PROGRAM	
✓ 設定の同期		閉じる(<u>C</u>)

計測器設定ウィンドウでは、ツリー上に展開された設定(ウィンドウ左側)を選択する毎 に、設定内容(ウィンドウ右側)が変わります。必要に応じて各種設定を行ってください。 設定内容をアナライザに送信する場合は、「 ご」を押します。逆に現在のアナライザの 設定内容を受信する場合は「 」を押します。

リモートモニターで長時間連続測定するときは、アナライザー側の設定を「記録 設定 Full stop: On」や「トリガー設定 Action: Stop」)など、測定が自動停止され るものにしないでください。 データウィンドウのツールバーで「 ²¹」ボタン(またはメニューの「測定」→「計測器設定」)を クリックし、設定を行ないたいシミュレーションデータテーブルを選択します。

計測器設定																								X
機種: LE-2500																				6	l,	1	1	1
コンフィグレーション 記録・表示制御	16	A		Ж	Þ	1	6			6	91	;	ii:		ポシ	ショ	シ	2	:050		列	的 :	14	334
■ トリガー ■ トリガー 0	8F	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	9 _A	9B	9C	9D	9E	9F	A0	θ1	А2	A3	Ĥ4	85	^
ドリガー 1	A6	87	A8	Ĥ9	AA	ЯB	AC	Яþ	θE	ĤF	BO	B1	B ₂	Вз	B4	BS	Bő	B7	Bg	B9	BA	вв	вс	
	BD	BE	BF	c0	c_1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	Cg	CA	с _в	cc	CD	СE	CF	DO	D_1	D_2	D3	
	D4	D5	D6	D7	D8	Dg	DA	DB	DC	DD	DE	DF	EO	E1	E2	EЗ	E4	E5	E6	E7	E8	E9	EA	
シミュレーションデータテーブル	EB	EC	Еþ	EE	EF	FO	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	Fg	Fg	FA	FB	FC	FD	F_E	$F_{\rm F}$	NU	s _H	
テーブル 0	sγ	Eχ	Е _Т	ЕQ	Α _K	BL	BS	н _т	LF	VΤ	F_{F}	c _R	s ₀	sI	D_L	D_1	D2	D3	D_4	NK	sγ	E_B	CN	
···· テーブル 1 テーブル 2	E	SB	Е _С	FS	6 _S	R_{S}	US	4	1	"	#	\$	%	8	1	()	ж	+	,	-		/	
	0	1	2	З	4	Б	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	0	А	в	С	D	Е	F	
テーブル 4	G	н	Ι	J	К	L	М	Ν	0	Ρ	Q	R	S	Т	U	٧	W	Х	Υ	Ζ	[\mathbf{i}]	
テーブル 5	^	_	•	а	b	с	d	е	f	g	h	i.	j	k	1	m	n	ο	р	q	r	s	t	
デーブル つ	u	v	w	×	У	z	{	1	}	~	DT	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	88	8B	
	80	8D	8E	8F	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	9A	9B	9C	9D	9E	9F	R ₀	А1	θ2	
テーブル 9	A3	R4	85	Я6	87	A8	Ag	AA	ЯB	AC	Яþ	ΑE	ΑF	во	Β1	B2	ВЗ	B4	B5	B6	B7	B8	Bg	
ー・ナーフル A	BA	BB	BC	Вþ	BE	BF	co	¢1	C2	C3	C4	C5	С6	C7	C8	Cg	CA	СB	cc	CD	СE	CF	DO	
	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	Dg	Dg	₽A	DB	DC	DD	DE	DF	EO	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	
テーブル D	Eg	Eg	EA	EB	EC	Еþ	EE	EF	Fo	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	Fg	FA	F_B	FC	FD	FE	
ー・テーブル E	FF	09	7B																					~
 ○ 設定の同期 																				(閉じ	3(C	

- 16進数・文字コード表示を切り替えます。
- .16進数入力・文字コード入力を切り替えます。
- 題 :フォーカスされた文字をパリティエラー(またはマルチプロセッサビット)とします。
- G:BCC(またはFCS)を挿入します。
- 「開始データ」から「終了データ」までのデータを「データ数」の文字数分入力します。

「開始データ」>「終了データ」:「開始データ」から「+1」しながら「文字数」分入力 「開始データ」<「終了データ」:「開始データ」から「-1」しながら「文字数」分入力

- 🧱 :テーブル内の全てのデータを消去します。
- 🔏 :選択された文字を切り取りします。
- 🗈 :選択された文字をクリップボードにコピーします。
- 💼 :クリップーボードから文字を貼り付けます。

リモートモニターで測定データを取り逃しなく記録できる測定対象の通信速度はPCとアナラ イザーの接続方法により異なります。以下を目安にして、ご利用ください。

USB 接続		:	最大 700Kbps	
シリアルポー	▶直接(115.2Kbps 接続時)	:	最大 20Kbps	Ж1
SI-60 経由 (230.4Kbps 接続時)	:	最大 40Kbps	Ж1

※1 実効通信速度の上限です。例えば、通信速度が1Mbpsの測定対象でも、1秒毎に 2Kバイトのデータを断続的に通信している場合は、実効速度が20kbps程度となるの で、測定データを取り逃すことなく記録できます。

連続して上限速度を超えて使用すると、測定データの記録抜け(欠落)が発生します。また、測定停止後も、PCへの転送が遅れていたアナライザーの測定データが長時間に渡り転送され、転送が終了するまで、PC 側での操作ができなくなりますのでご注意ください。
 測定データの欠落が発生した場合、と表示されます。
 キーエミュレーションと併用すると上限速度は大幅に下がりますので、なるべくキーエミュレーション画面を表示しないでください。

測定の開始

データウィンドウのツールバーで「●」ボタン(またはメニューの「測定」→「測定開始」)をクリ ックし測定を行います。測定が開始されると各種状態表示部に「測定中」と表示され、アナラ イザから受信したデータを順次表示します。測定中は文字サイズの変更(「A」」を押す)や 字コード変更、16進数表示(「¹⁶⁶」を押す)、表示の一時停止(「■」を押す)などを行うことが できます。

測定の終了

データウィンドウのツールバーで「■」ボタン(またはメニューの「測定」→「測定停止」)をクリ ックし測定を終了します。測定終了後はスクロールなどができるようになります。データは自 動的にリモート設定で指定したフォルダに保存されています。別名で保存したい場合は「↓」 ボタン(またはメニューの「ファイル」→「データファイルの保存」)をクリックします。

測定終了時は、最後のファイルが開かれています。 全てのファイルを見る場合は「 🖆 」ボタン(またはメニューの「ファイル」→「データファイルを 開く」)をクリックして、ファイルを選択して開いてください。

表示画面の切替え

リモート	モニター画面 ②	3		
	🖴 Remote01 - LINEEYE LE-PC30JG			
	ファイル(E) リモート(B) 測定(M) ツール(D) ヘルプ(H)			
	👌 🖬 🗢 🗰 🖆 🕾 🔊 😐 🏝 🖃	R		
	データモニター(通常表示) データモニター(フレーム表示) タイ	マークカウンター		
1	JIS8 💽 🛅 🛨 🏝 🔍 Qt Qł 🗛 🗛			
				·
	DLE TMSP A I VRTMSP	Colc 0.0144	MSP AIX	SFCRIDLE TM+
	► SP IDLE TMSP A	MSP TEC	4.33.02) V 1 (5 7 5 = +
	€:55.63 ^C R ^L FOK ^C R ^L F 0.00644:55.63 [·]	4:55.63 A T	EOV	1 8 7 5 🔶
	♦0·S·9·5·=·4·5·△·&·	C • 1 • & • D •	2.5.0	• = • O • ° _R • • •
	♦ · = · 0 · S · 9 · 5 · = · 4 · 5 · △	·&·C·1·8	x · D · 2 · 8	$3 \cdot 0 \cdot = \cdot 0^{\circ}_{R} \bullet$
	IDLE TMSP IDLE I	MSP ATS7	7=50830	D=0L0M1¥♦
	■ 0.00244:55.64 ^C _R L _F ○ K ^C _R L _F 0.007 ■	4:55.65		🔶
	N 3%C 3 & K 3 B 0 X 4 ℃ IDLE TMS	SP	IDLE	MSP ATSO +
				4:55.66
		0 01244:55 68 -	A YRIMOF 10155 6	
	► IF TMSP AT & E CPIDLE TMSP	· · · · · · ·	IDLE TMS	
	♦ 0.01444:55.70	.70 ⁰ RLFOK ⁰ RL	0.00644:	55.71 44:55.71 +
	→ T · E 0 · V · 1 · S · 7 · 5 · = · ·	0 8 9 5	= • 4 • 5	_ & C 1 →
	♠A·T··E·O·V·1·S·7·5	$\cdot = \cdot \circ \cdot \circ \circ$	9 · 5 · = · 4	4 • 5 • <u>∧</u> • & • ♦
	♦ · & · D · 2 · S · 0 · = · 0 · ^C _R · · 1	DLE TMSP		· IDLE TMSP 🔶
	$\bullet C \cdot 1 \cdot \& \cdot D \cdot 2 \cdot S \cdot 0 \cdot = \cdot 0^{\circ}_{R}$	0.00244:55.7	2 ⁰ R ^L F O K ⁰ R ^L	F 0.00744:55. 🔶
				<u>×</u>
	0 [MR560AT1.DT : 0]	停止中:	オンライン	LE-2500

画面の表示は以下のように切替えることができます。

- ・表示コード切替え 文字コードが表示されているドロップダウンリスト(上図の①)から、表示したい文字コードを選択します。
- ・16進数表示 「16」を押します。(特殊キャラクターも含めて16進数で表示されます)
- ・制御線情報表示 「 5 」を押します。表示したい制御線情報の変更は「 5 」を押し て制御線表示設定ウィンドウを開き設定を行います。
- ・翻訳表示 データモニター翻訳表示タブ(上図の②)を押すと翻訳表示画面に 切替わります。翻訳表示時にパケット翻訳が可能な場合、「 ∅」を 押すことでパケット翻訳表示に切替わります。データモニター(通 常表示)タブを押すと元の表示画面に切替わります。
- ・タイマー/カウンター タイマー/カウンター表示タブ(上図の③)を押すとタイマー/カウン ター表示画面に切替わります。
- ・波形モニター表示 波形モニター表示タブを押すと波形モニター表示画面に切替わり ます。
 - ▶ 第9章 波形モニターデータ

測定データはデータウィンドウのツールバーで「 👛 」ボタン(またはメニューの「ファイル」→ 「データファイルを開く」)をクリックして、ファイルを選択して開いてください。

複数のファイルを開いた場合、連続したデータとして表示されます。読み出した測定データは データプロパティの表示(「ファイル」→「データプロパティの表示」)で、測定条件や測定日時 を確認することができます。

データフロパティ	- E
Model: LE-3500 Extension: 標準 Version: 10601 Serial number: 31808001++ Start time: 2012/05/16 18:44:35 Stop time: 2012/05/16 18:46:08	
Function: ONLINE Protocol ASVNC SD speed: 57600 bps FD speed: 57600 bps Data code: JIS8 Data bit 8 bits Parity: None Stop bit: 2 bits BCC: None	
	~
	ОК

データの検索

検索の条件は「🤍」を押し、データ検索ウィンドウで設定します。

·検索条件

「トリガー」	トリガー条件と一致したデータ
「エラー」	パリティエラー/フレーミングエラー/BCCエラー/FCSエラ
	ー/ブレーク/アボート/ショートフレームエラー
	(チェックしたものと一致するデータ)
「キャラクター(16進数)」	最大8文字のデータ列(ドントケア、ビットマスク指定可能)

「キャラクター(文字列)」最大16文字の文字列(ASCIIのアルファベット、数字、記号の指 定が可能)表示データコードの選択に応じて検索

- 「アイドルタイム」 指定時間以上のアイドルタイム
- 「タイムスタンプ」 指定のタイムスタンプ(ドントケア指定可能)

·検索動作

- 「表示」

 一致したデータを先頭に表示
- 「計数」 一致した件数を表示

※ 検索条件の詳細については、アナライザ本体の取扱説明書をご参照ください。

「 🔍 」(データの先頭方向)または「 斗 」(データの後方)を押すことでデータの検索や計数 ができます。 ビットエラーレイトテストを選択時は、離れた場所や遠隔地の回線品質を監視することができます。

測定の開始

データウィンドウのツールバーで「●」ボタン(またはメニューの「測定」→「測定開始」)をクリ ックします。測定が開始されると以下の画面が表示されます。

🖀 Remot	01 - LINEEYE LE-PC300G			
771N(E)	リモート(R) 測定(M) ツール(T) ヘルプ	(H)		
69412-	/=FJAF			
Savail :	4 同期ロス:	0		
受信ビット	枚: 4632720 受信ブロック	敬: 73535		
エラービット	数: 0 エラーブロッ!	5数: 0		
ビットエラー	レート: 0.00e+0 ブロックエラー	-レート: 0.00e+0		
エラーセカ:	/ド: 0 %E.F.S.:	100.000		
		停止中	オンライン LE-	2500
		1		
ボタン	BERTを開始します。			
ボタン	BERTを停止します。(テ	「ストバターンに	「継続して出力	されます)
ボタン	1ビットのエラーを出力し	します。		
15 4 5				
ホタン	5ビット連続し7ミエフーを	出力します。		
ボタン	表示を一時停止します。	0		
」ホタン		+ 101-5-66-70		
	リビートモードのBERTB	寺、測定終了後	に複数の結果	を受信してCSV
	リピートモードのBERTB ます。変換した結果は、	寺、測定終了後 BERTDATA.cs	に複数の結果 ミンとして保存され	を受信してCSV hます。
山 か ち、	リビートモードのBERTB ます。変換した結果は、	寺、測定終了後 BERTDATA.cs	に複数の結果	を受信してCSV hます。
」ボタン	リビートモードのBERTB ます。変換した結果は、 アナライザ本体で保存る	寺、測定終了後 BERTDATA.cs されているリピ・	に複数の結果 wとして保存さ ートモードのBE	を受信してCSV hます。 RT結果(CFカ -
ボタン	リビートモードのBERT® ます。変換した結果は、 アナライザ本体で保存る どに保存)をCSV変換し	寺、測定終了後 BERTDATA.cs されているリピ- .ます。	に複数の結果 wとして保存さ ートモードのBE	を受信してCSV hます。 RT結果(CFカー
」ボタン	リビートモードのBERTE ます。変換した結果は、 アナライザ本体で保存 どに保存)をCSV変換し	寺、測定終了後 BERTDATA.cs されているリピ・ ます。 - リピートマ	に複数の結果 wとして保存され ートモードのBE	を受信してCSV hます。 RT結果(CFカ-
」ボタン 」ボタン	リビートモードのBERTE ます。変換した結果は、 アナライザ本体で保存 どに保存)をCSV変換し BERT結果を保存します	寺、測定終了後 BERTDATA.cs されているリピ- ます。 「。リピートモー	に複数の結果 wとして保存さ ートモードのBE ド時は最新の約	を受信してCSV hます。 RT結果(CFカー 吉果のみとなりa
ボタン ボタン	リビートモードのBERT間 ます。変換した結果は、 アナライザ本体で保存 どに保存)をCSV変換し BERT結果を保存します で「BERT結果の受信と	寺、測定終了後 BERTDATA.cr されているリピ・ ます。 ・ 。リピートモー 変換」を実行し	に複数の結果 wとして保存さな ートモードのBE ド時は最新の終 てCSVファイル	を受信してCSV れます。 RT結果(CFカ− 結果のみとなり ま として履歴を保
Iボタン Iボタン	リビートモードのBERT間 ます。変換した結果は、 アナライザ本体で保存さ どに保存)をCSV変換し BERT結果を保存します で「BERT結果の受信と ください。	寺、測定終了後 BERTDATA.cs されているリピ・ ます。 ・。リピートモー 変換」を実行し	に複数の結果 wとして保存さな ートモードのBE ド時は最新の終 てCSVファイル	を受信してCSV れます。 RT結果(CFカ− も果のみとなり ま として履歴を保

アナライザから離れた場所や遠隔地から、アナライザの遠隔操作を行うことができます。

キーエミュレーションの起動

データウィンドウのツールバーで「□□」ボタン(またはメニューの「ツール」→「キーエミュレー ション」)をクリックします。



- ① 接続中のアナライザの画面を表示します。
- アナライザのキーをエミュレーションします。

画面イメージの取り込み

接続しているアナライザの表示画面イメージをビットマップ(BMP)ファイル形式で保存するこ とができます。

- 「日」ボタン 現在の画面表示をビットマップファイルとして取り込みます。
- 「□」ボタン 現在の画面表示をクリップボードにコピーします。
- 「□」」ボタン ビットマップファイルをモノクロモードで作成します。
- 「□」ボタン ビットマップファイルをモノクロモード(外枠つき)で作成します。
- 「 🔷 」ボタン ビットマップファイルをカラーモードで作成します。
- 「 2」ボタン 元のデータウィンドウに戻ります。

リモートモニターで測定したデータや、アナライザでメモリーカードやHDDに保存したデータを テキストファイルに変換することができます。

テキスト変換機能の設定

データウィンドウのツールバーで「¹ 」ボタン(またはメニューの「ツール」→「テキスト変換」) をクリックします。

下記のテキスト変換ウィンドウが開きます。

💁 テキスト変換 - LINEEYE LE-	PC300G	
フォルダ(<u>F</u>): ¥¥Lekserverf¥Temp¥L	Eデータ	
アイルの推奨① データフィル(k-dt) データフィル(k-dt)		■ 制御線指定(): V RS 上へ V CS 下へ D R 下へ V OD V ER CI EX
12CS100.DT ▲ 全て選択(A) 全て解除(N)		変換実行(C)

・フォルダ

テキスト変換を行いたいデータのあるフォルダを指定します。

・ファイルの種類

「データ」「本体オートセーブのファイル」から選択します。

最新の状態に更新

指定フォルダ内のファイル情報を最新にします。

・モニターデータファイル

ー覧表示から変換したいファイルを選択します。ファイルをクリックすると選択されます。 再度、クリックすると選択が解除されます。(複数のファイルを選択することができます。 全てを選択・解除することもできます。) ·出力形式

変換する形式を次項から選択選択します。

「通常印字」(アナライザの印刷フォーマット)

- 「通常印字+ラインステート」(制御線情報を含めたアナライザの印字フォーマット)
- 「翻訳印字(測定時指定)」(アナライザの翻訳印字フォーマット)

「CSV形式 処理単位:データ(通常)」(データ毎に区切ります)

「CSV形式 処理単位:フレーム」(フレーム毎に区切ります)

・行の文字数

1行に表示する文字数を「40」、「80」、「136」、「MAX」から選択します。

・データ形式

変換するデータ形式を下記から選択します。

「文字/16進」(文字コードと16進数値を表示)

「文字」(文字のみ表示)

「16進数値」(16進数値のみ表示)

・ガイドなし

チェックを入れた場合、通信条件などガイドなし(データのみ)で変換します。 ・タイムスタンプを除く

チェックを入れた場合、タイムスタンプを削除して変換します。

・アイドルタイムを除く

チェックを入れた場合、アイドルタイムを削除して変換します。

·信号線選択

変換するデータを「SDとRD」、「SDのみ」、「RDのみ」から選択します。

・HDLC翻訳

HDLC時、変換する翻訳形式を「フレーム」、「パケット」から選択します。

・PPP翻訳

PPP時、変換する翻訳形式を「PPP翻訳」、「DUMP形式」から選択します。 ・制御線指定

「通常印字+ラインステート」時に一緒に表示する制御線にチェックを入れます。 「上へ」「下へ」ボタンで表示する順番を変更できます。 CSV変換を選択した場合は、下記のウィンドウとなります。

- - - テキスト変換 - LINEEYE LE-	PC300G			
フォルダ(E): ¥¥Lekserverf¥Temp¥L	Eデータ			
ファイルの種類(T): データファイル(* dt)	変換条件			
モニターデータファイル(<u>M</u>):	CSV形式 処理単位	ロデータ	~	
最新の状態に更新(R)	信号線選択(S):	SDとRD	~	
115200.DT 57600.DT	データ形式(<u>D</u>):	16) 進数値	~	
9600.DT 96CFAB7.DT	1行の列徴(山):	32	\$	
BERT.DT BSC.DT E113.DT	区切り文字(1):			
FAB7.DT FE113.DT				
HDLC1.DT I2C001.DT				
12CEE5V.DT 12CM100.DT				
12CM1 M.D I 12CM384.DT				
<u> 上OSTOULD1</u> 今て確認(A) 今て報認(A)				
			変換実	ŧ行©

·信号線選択

「SDとRD」、「SDのみ」、「RDのみ」から選択します。

・データ形式

「16進数値」、「10進数値」、「文字」から選択します。

一行の列数

1~65535の範囲で設定します。

・区切り文字

「、」などの区切り文字を設定します。

テキスト変換機能の実行

変換実行を押します。変換元のファイルがあったフォルダに保存されます。

アナライザにロジアナのデータがある場合は、波形モニターデータを受信し表示します。

🖀 Re	mot	e01 – LINEE	YE LE-P	C300G						
771,	ŀ(Ē)	リモート(風)	測定(M)	ツール(エ) ヘル	ブ(日)					
1		•** 11	9 🎝 🖻		🖿 🦷	•				
デー	RE_!	マー(通常表示)	データモニタ	9-(翻訳表示)	タイマー/ガ	カンター 波	形モニター			
	<u> </u>	— x1/2	}- 🖸 1.	66ms (D 🚺 730	su	C-M: 930u	s		
	-1	ns	Oms	🔟 1ms	🤇	2ms	3m	s 	4ms	
SD	‡‡								Γ	
RD	11									
RS	0.0									
CS	11									
DR	11									=
ER	0 0									
CD	11									
CI	11									
ST1	‡ ‡	กกกกกก	บปกกก	որսկոսոս	າກກາກ	חחחחח	กกกกกก	תתחחת	บกกุ่กกก	יתתתי
ST2	11									×
	_	<	_	_					_	>
							オフライン	/ L	E-2500	

- ・カーソル表示

「
「
」
を
押
し
ま
す
。
カ
ー
ソ
ル
が
画
面
中
央
付
近
に
表
示
さ
れ
ま
す

・マーカ表示

「 □ 」を押します。マーカが画面中央付近に表示されます。

・時間計測 波形モニター表示画面上の「□」、「□」をマウスでドラッグし測定し たい位置へ移動させます。「C-M:**」(画面例ではC-M:930usと表示) 部分にカーソルとマーカ間の時間が表示されます。

・信号線表示切替え「 🚬 」を押し、信号標準設定ウィンドウで表示する順番を設定します。

第11章 複数台のアナライザを接続する

複数台のアナライザを同時に接続して使用する場合、その台数分のリモート設定を追加す る必要があります。

リモート設定の追加はリモート設定一覧ウィンドウで行います。

データウィンドウのツールバーで「♪」ボタン(またはメニューの「ツール」→「リモート設定一 覧」)をクリックするとリモート設定一覧ウィンドウが開きます。

リモート設定一覧ウィンドウ

	🖴 リモート設定一覧 - LINEEY	'E LE-PC300G		
1)	ファイル(E) リモート(B) ヘルプ(E)		
$\tilde{2} \longrightarrow$	@ 🔓 🏠 🗙			
	設定名 状態 接続設定	宅 リモー	トモニターデータフォルダ	
	Remote01 使用中 [USB]30 Remote02 [USB]30	0808001 C.¥Do 0808001 C.¥Do	cuments and Settings¥Kubota¥My Documents¥l cuments and Settings¥Kubota¥My Documents¥l	.EPC300G¥ .EPC300G¥
3				
	起動時の動作		₍ -オプション	
		5)+88/		
	● ● リモート設定一覧(このワインド	// CIALO	永小吉福・ 日本譜 ▼	

① メニュー

ここから各種操作を行うことができます。

② ツールバー

ここから各種操作を行うことができます。

- リモート設定リスト リモート設定が表示されます。
- ④ オプション設定 起動時の動作を選択することができます。
- リモート設定の追加

リモート設定ウィンドウのツールバーで「 🛺 」ボタン(またはメニューの「リモート」→「新規設 定」)をクリックすると新しいリモート設定が追加され、リモート設定ウィンドウが開くので、必 要な設定を行います。

- ▶ 第5章 動作環境の設定
- リモートモニターデータの保存先として複数のリモート設定に対し同じフォルダを 指定しないでください。

リモート設定一覧ウィンドウからこの設定ウィンドウを開いた場合、設定名を変更することが できます。(データウィンドウからでは設定名を変更することはできません)

リモート設定		×
設定名: 📧	note02	
接続機種選択	リモートモニター キーエミュレーション その他	_
接続方法(<u>M</u>):	USB	~
シリアル番号(S):	30808001	
·	OK ++1/1	

このようにして、接続したい台数分の リモート設定を追加していきます。

データウィンドウを開く

リモート設定一覧ウィンドウのリモート設定リストから、使用したいリモート設定を選択し(複 数選択可)、ツールバーで「 🥝 」ボタン(またはメニューの「ファイル」→「データウィンドウを 開く」)をクリックすると選択されているリモート設定用のデータウィンドウが開きます。

リモート設定の削除

不要なリモート設定は削除することができます。

リモート設定一覧ウィンドウのリモート設定リストから、削除したいリモート設定を選択し(複 数選択可)、ツールバーで「ご」」ボタン(またはメニューの「リモート」→「設定削除」)をクリッ クすると、削除確認のメッセージが表示され、そのメッセージで「OK」をクリックすると選択さ れているリモート設定が削除されます。ただし、複数選択時にデータウィンドウが開かれてい るリモート設定が含まれている場合、それらの設定は削除されません。すべてのリモート設 定を削除したまま終了すると、次回起動時に新しい設定(設定内容はデフォルト設定になり ます)が自動的に追加されます。

起動時の動作設定

LE-PC300Gを起動したときの動作を次のうちから選択することができます。

「リモート設定一覧を開く」

リモート設定一覧ウィンドウを開きます。すでにリモート設定一覧ウィンドウが開かれている 場合は、それを前面に表示します。

「データウィンドウを開く」

データウィンドウをリモート設定リストの表示順に開きます。すでに全てのリモート設定に対 するデータウィンドウが開かれている場合は「リモート設定一覧を開く」と同じ動作となます。 LE-PC300Gを起動するときに、以下のオプションを指定することができます。

-r"<設定名>"

LE-PC300G 起動後、<設定名>で指定された接続設定で自動的に測定を開始します。 複数の設定に対して自動的な測定開始を行いたい場合は、それぞれの設定名につい て、このオプションを指定します。たとえば、Remote01とRemote02について自動測 定を開始する場合は -r "Remote01" -r "Remote02"と指定します。 自動測定開始時は、既存データファイルが消える可能性を示す警告を表示するように 設定していても警告メッセージを表示せずに測定を開始します。 追記モードを設定していない場合、このオプションを使用して LE-PC300G を起動した とき、既存のデータファイルが警告なしに削除されてしまいますので注意してください。

-q

できるだけ早く測定データをデータファイルへ書き込んだうえで、データファイルとしての 形式を可能な限り正常に維持するようにします。

(いかなる時点でも正常であることを保障するものではありません)

また、測定データを書き込み中のデータファイルに対して読み出し共有を許可するよう になりますので、そのデータファイルをコピーすることが可能になります。

ただし、書き込み中のデータファイルを LE-PC300G の別のウィンドウで直接開くことは できません。なお、ご使用の環境にもよりますが、PC の応答性が悪化したり、データ ファイル保存先メディアの性能劣化を早める可能性があるため、通常、このオプション の使用は推奨いたしません。

第12章 仕様

対象アナライザ	LE-3500/2500/7200/3200/2200/1200 *1	
接続方式	シリアル接続、USB接続、LAN接続(LAN-シリアル変換器SI-60、SI-60F)	
接続台数	複数のアナライザと接続しリモートコントロール可能 (台数はPC環境に依存)	
測定条件設定	計測条件(通信条件、トリガー条件、シミュレーションデータ)を編集、設定可能	
キーエミュレーション機能	PC上でアナライザの画面とキーを表示しアナライザを遠隔操作可能	
リモートモニター機能	アナライザの測定の開始と停止、およびPCで計測データの表示と連続記録可能	
	記録モード	固定長バッファモード:制定容量まで計測し自動停止 リングバッファモード:指定容量分の最新データをエンドレス記録
	記憶容量	最大16GB:1/2/4/8MB単位で最大2000ファイルまで指定可能
テキスト・CSV変換機能	指定の記録ファイルを一括してテキストまたはCSV形式のファイルに変換可能	
画面イメージ取り込み機能	キーエミュレーションで表示中のアナライザの画面をビットマップ形式で保存	
表示モード	通常表示	通信データとアイドルタイム、タイムスタンプ、制御線情報を表示 ASCII、EBCDIC、JIS7、JIS8、Baudot、Transcode、IPARS、EBCD EBCDIK、HEX(エラーを含めても16進数表示)
	翻訳表示	SDLC、X.25、LAPD、PPP、IrLAP翻訳表示 I ² Cフレーム、SPIフレーム表示
	波形モニター表示	ロジアナの波形表示を拡大、縮小表示 (時計計測、信号の並び替え可能)
検索機能	検索する条件と一致するデータを表示または計数	
検索機能	検索条件	指定文字列 16進数(最大8文字)/文字コード(最大16文字)、 ドントケア、ビットマスク可能 エラー パリティ、フレーミング、BCC、ブレーク、アボート、ショートフレーム の個別設定可能 指定時間以上のアイドルタイム 指定のタイムスタンプ(ドントケア可能)
動作環境	PC	RAM : 512MB以上 (Windows Vistaでは1GB以上) HDD : 5MB+測定データ記録エリア分の空き容量が必要
	OS	Windows 2000/XP/Vista/7

*1 OP-SB7GX、OP-SB7F、OP-SB7FXとの併用はできません。

株式会社 ラインアイ

●本社 :〒601-8468 京都府京都市南区唐橋西平垣町 39-1 丸福ビル 4F
 tel:075(693)0161 fax:075(693)0163

● 技術センター:〒526-0065 滋賀県長浜市公園町 8-49

tel:0749(63)7762 fax:0749(63)4489

URL http://www.lineeye.co.jp Email :info@lineeye.co.jp

この取扱説明書は再生紙を使用しております。

Printed In Japan